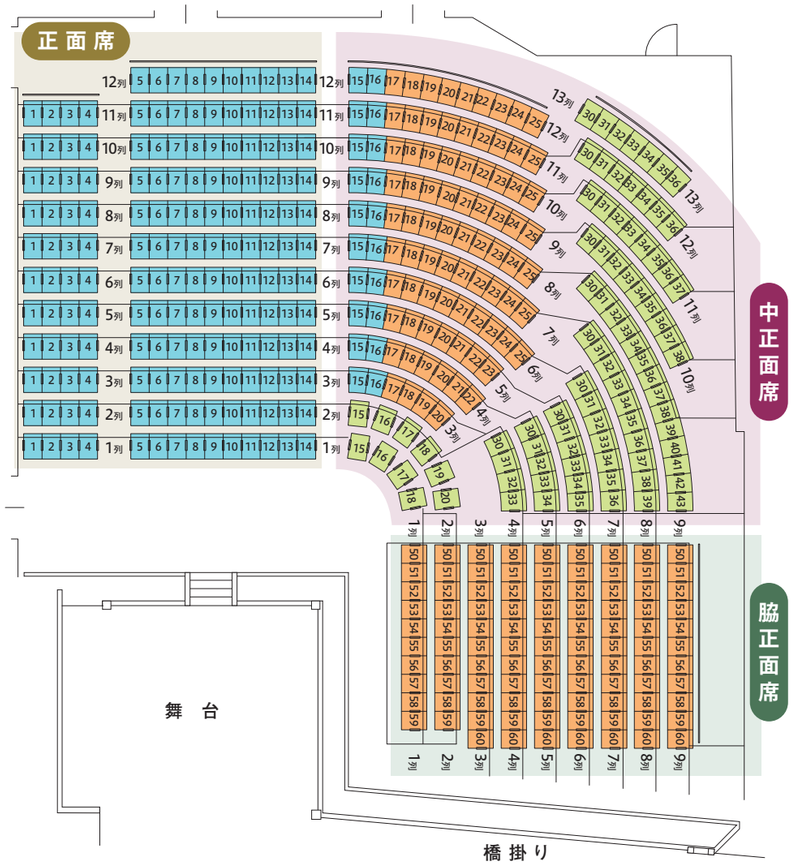
## 座席表　S席　A席　B席




一歩踏み込んだ解説講座は
いかがでしょうか？

## 月イチ能楽講座 in大槻能楽堂

講師　大槻裕一・成田奏
講座内容　1/13（水）19時～ 演目「熊坂」
料金　一般 2,000円　学生 500円
申込　右記QRコードを読み取り、申込フォームをご送信ください。

令和8年度 大槻能楽堂自主公演能

### 音声による上演前の解説（日英）

利用料　200円

公演日の演目について気軽に聞ける、音声による上演前の解説（日英）をご用意しました。
開演前、休憩中にぜひご利用ください。
※上演中はご利用いただけません。

**入場料金**

| 席　種 | 前　売 | 当　日 |
|---|---|---|
| S席 | 11,000 円 | 12,000 円 |
| A席 | 9,900 円 | 10,900 円 |
| B席 | 7,700 円 | 8,700 円 |
| 学生（B席） | 5,500 円 | 6,500 円 |
| U-25 25歳以下（B席） | 席数限定 3,000 円 | 席数限定 4,000 円 |

※友の会：割引特典あり ※当日券は開演の1時間前より販売

**チケット発売日**

| 公演 | 友の会 | 一般 |
|---|---|---|
| 1/3　花筐 | 10/23 | 11/2 |
| 1/4　正尊 | 10/26 | 11/4 |

**チケットご予約・ご購入** ★各種サポートセットの販売有

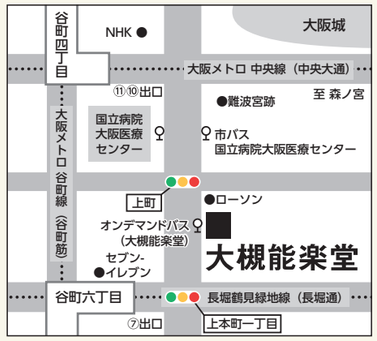
★大槻能楽堂ホームページ
（発売日10:00～）
https://noh-kyogen.com/ticket/

★大槻能楽堂 事務局
（11:00～16:00 不定休）
TEL.06-6761-8055

●チケットぴあ Pコード
1/3 539-604　1/4 539-605

## 会場　大槻能楽堂　大阪市中央区上町A番7号

●大阪メトロ谷町線・中央線
「谷町四丁目」駅下車、
⑩号出口を出て南へ約300m。
（⑪号出口にエレベーター有）
または谷町線・長堀鶴見緑地線
「谷町六丁目」駅下車、
⑦号出口を出て北へ約350m。
（⑦号出口にエレベーター有）
●市バス「国立病院大阪医療センター」
下車南へすぐ。
※「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫前」行き、
「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き。
●オンデマンドバス（2026年10月26日より移設予定）
乗降場所：大槻能楽堂




※駐車場・駐輪場はございません。
※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程・終演予定時刻等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承くださいますよう、お願い申し上げます。
※本公演における写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。
※上演中は時計等のアラームや携帯電話の電源をお切りください。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。

Noh
OHTSUKI NOH THEATRE

令和八年度 大槻能楽堂自主公演能

# 新春能

一月三日（日）午後二時 開演
能　翁　大槻 文藏
狂言　察化　茂山 逸平
能　花筐　大返　茂山千五郎　片山九郎右衛門

一月四日（月）午後二時 開演
能　翁　十二月往来　梅若紀彰　梅若猶義　野村 裕基
狂言　二千石　野村 万作
能　正尊　起請文　翔入　観世 喜正




# 大槻能楽堂

主催：公益財団法人大槻能楽堂

助成：文化庁　文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））｜独立行政法人日本芸術文化振興会

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7
TEL.06-6761-8055
【公式サイト】noh-kyogen.com

公演パンフレット「おもて」
季刊発行（詞章・あらすじ等を掲載）
1冊:1000円（定価）



# 令和八年度 大槻能楽堂自主公演能

# 新春能

## 第757回 令和9年 1月3日(日) 13：00開場 14：00開演

### 翁

| | | |
|---|---|---|
| 翁 | | 大槻　文藏 |
| 三番三 | | 茂山　逸平 |
| 千歳 | | 谷本悠太朗 |
| 面箱持 | | 茂山　虎真 |
| 笛 | | 杉　信太朗 |
| 小鼓 | 頭取 | 大倉伶士郎 |
| | 脇鼓 | 大倉源次郎 |
| | 〃 | 吉阪　倫平 |
| 大鼓 | | 山本　哲也 |
| 後見 | | 赤松　禎友 |
| | | 谷本　健吾 |
| 地謡 | | 多久島利之 |
| | | 齊藤　信隆 |
| | | 上野　雄三 |
| | | 大西　礼久 |
| | | 山本　正人 |
| | | 水田　雄晤 |
| | | 山田　　薫 |
| | | 上野　雄介 |
| 狂言後見 | | 茂山千之丞 |
| | | 島田　洋海 |

休　憩

### 能 花筐 大返

| | | |
|---|---|---|
| シテ | 照日の前 | 片山九郎右衛門 |
| ツレ | 侍女 | 大槻　裕一 |
| 子方 | 王 | 福王耀二郎 |
| ワキ | 官人 | 福王茂十郎 |
| ワキツレ | 使者 | 福王　知登 |
| ワキツレ | 輿舁 | 喜多　雅人 |
| ワキツレ | 〃 | 佐々木　秀 |
| 笛 | | 杉　市太郎（市和 改め） |
| 小鼓 | | 吉阪　一郎 |
| 大鼓 | | 亀井　広忠 |
| 後見 | | 上野　朝義 |
| | | 片山　伸吾 |
| 地謡 | | 浅井　文義 |
| | | 上田　拓司 |
| | | 山本　博通 |
| | | 浦田　保親 |
| | | 寺澤　幸祐 |
| | | 武富　康之 |
| | | 齊藤　信輔 |
| | | 片山　峻佑 |

（終演予定時刻 17時30分頃）

### 狂言 察化

| | |
|---|---|
| シテ　太郎冠者 | 茂山千五郎 |
| アド　主人 | 茂山　竜正 |
| アド　すっぱ | 茂山あきら |
| 後見 | 増田　浩紀 |

休　憩

## 第758回 令和9年 1月4日(月) 13：00開場 14：00開演

### 翁 十二月往来

| | | |
|---|---|---|
| 翁 | | 梅若　紀彰 |
| | | 梅若　猶義 |
| 三番叟 | | 野村　裕基 |
| 千歳 | | 川口　晃平 |
| 面箱持 | | 飯田　　豪 |
| 笛 | | 竹市　　学 |
| 小鼓 | 頭取 | 飯田　清一 |
| | 脇鼓 | 曽和伊喜夫 |
| | 手先 | 成田　　奏 |
| 大鼓 | | 亀井　広忠 |
| 後見 | | 山本　博通 |
| | | 山崎　正道 |
| 地謡 | | 上田　貴弘 |
| | | 山本　章弘 |
| | | 浦田　保親 |
| | | 梅若　基徳 |
| | | 齊藤　信輔 |
| | | 今村　哲朗 |
| | | 上野　雄介 |
| | | 稲本　幹汰 |
| 狂言後見 | | 深田　博治 |
| | | 高野　和憲 |

休　憩

### 能 正尊 起請文 翔入

| | | |
|---|---|---|
| シテ | 土佐坊正尊 | 観世　喜正 |
| ツレ | 源義経 | 観世　淳夫 |
| 子方 | 静御前 | 福王登一郎 |
| ツレ | 江田源三 | 寺澤　幸祐 |
| ツレ | 熊井太郎 | 武富　康之 |
| ツレ | 姉和光景 | 大槻　裕一 |
| ツレ | 正尊の郎等 | 齊藤　信輔 |
| ツレ | 〃 | 井戸　良祐 |
| ツレ | 〃 | 笠田　祐樹 |
| ツレ | 〃 | 上野　雄介 |
| ツレ | 〃 | 今村　哲朗 |
| ツレ | 〃 | 林本　　大 |
| ワキ | 武蔵坊弁慶 | 福王　和幸 |
| アイ | 婢 | 野村太一郎 |
| 笛 | | 斉藤　　敦 |
| 小鼓 | | 曽和　鼓堂 |
| 大鼓 | | 河村　　大 |
| 太鼓 | | 中田　弘美 |
| 後見 | | 大槻　文藏 |
| | | 赤松　禎友 |
| | | 谷本　健吾 |
| 地謡 | | 藤井　完治 |
| | | 多久島利之 |
| | | 上田　拓司 |
| | | 上野　雄三 |
| | | 水田　雄晤 |
| | | 山田　　薫 |
| | | 上田　顕崇 |
| | | 梅若雄一郎 |

（終演予定時刻 17時25分頃）

### 狂言 二千石

| | |
|---|---|
| シテ　主 | 野村　万作 |
| アド　太郎冠者 | 野村　萬斎 |
| 後見 | 高野　和憲 |

休　憩

両日とも「翁」開演から翁渡りが終わるまで客席への出入りは出来ませんので、お時間に余裕をもっておこしくださいませ。
開演5分前には着席のご協力をお願い致します。

## あらすじ　文／石淵文恵

### 《翁（おきな）》

三丁の小鼓と大鼓が織成すリズムの高揚。千歳は颯爽と舞い、白い翁は厳かに天下泰平と国土安穏の祈りを捧げ、黒い翁は大地を踏み跳躍して五穀豊穣を願う。――

他の演目とは一線を画し、「能にして能にあらず」とも言われる特別な演目。後見や地謡が、長袴の素袍に侍烏帽子を付けた武家の正装で居並ぶのも《翁》だけだ。

大槻能楽堂の名物である正月二日連続公演の《翁》。令和九年の幕開けを飾る一日目（3日）は、大槻文藏（文化功労者・人間国宝）の大夫に、千歳は谷本健吾（銕仙会）の長男・谷本悠太朗。三番三（大蔵流）は京都の茂山千五郎家から茂山逸平、面箱持は十四世千五郎の次男・虎真。この日の囃子は特に、頭取を小鼓方大倉流十六世宗家・大倉源次郎（人間国宝）の嗣子・伶士郎が勤め、父・源次郎が脇鼓を勤めることに注目したい。

二日目（4日）の《翁》は月毎の風流を謡う「十二月往来」で、梅若紀彰と梅若猶義の二人翁となる。千歳は梅若会の川口晃平。三番叟（和泉流）は野村萬斎の嗣子・裕基。面箱持は野村万作家の飯田豪。

毎年のことながら、東西から名手から若手まで、大槻能楽堂ならではの豪華な顔ぶれが、うち揃って新春を寿ぐ。

### 狂言《察化（さっか）》

連歌の初心講（初心者の勉強会）の当番になった主は、都に住む伯父御に宗匠（師匠）を頼もうと、太郎冠者を使いにやるが、連れて来たのは「見乞（みごい）の察化」という「すっぱ（詐欺師・ペテン師）」だった。――

肝心なところで詰めの甘い太郎冠者だが、分かってやっているのか、いないのか。茂山千五郎の太郎冠者が、評判のワル・察化（茂山あきら）を四苦八苦させるところが実に痛快だ。主を勤めるのは千五郎の長男・竜正。

### 能《花筐（はながたみ） －大返（おおがえし）－》

越前国味真野にいた大迹部皇子は、皇位を継承することになり、寵愛していた照日前に文（手紙）と形見の花籠を残して、都のある大和国へ向かった。ある秋の日、即位して帝となった皇子の紅葉狩の御幸の行列の前に、一人の狂女が行きかかる。ところが、臣下が見苦しいと咎めて、狂女の侍女が持っていた花籠を打ち落としてしまう。この狂女こそ、皇子の愛した照日前だった。――

一途な恋情がやがて幸せをもたらすシテ・照日前には京都から片山九郎右衛門、ワキに福王流十六世宗家・福王茂十郎（文化功労者）、地頭は浅井文義で堪能したい。

### 狂言《二千石（じせんせき）》

無断欠勤の太郎冠者を叱ろうとした主人は、冠者が都見物をして来たと言うので、話を聞きたさに許してやる。ところが、冠者が都で流行っているという「二千石（じせんせき）」という謡を披露した途端に大激怒する。――

二千石は大名のこと。この謡は、主人の先祖が八幡太郎義家の安倍貞任追討の折に謡って、宇陀庄を賜って以来封印した由緒ある謡だった。野村万作（文化功労者・日本芸術院会員・人間国宝）と萬斎の楽しみな父子共演。

### 能《正尊（しょうぞん） －起請文（きしょうもん）・翔入（かけりいり）－》

源義経は宿敵の平家を亡ぼした英雄だったが、兄の頼朝との不和が深刻な状況になり、鎌倉に入ることも許されず都へ戻って謹慎を余儀なくされていた。そんな折、土佐坊正尊が鎌倉から上京する。義経は、正尊が頼朝からの刺客だと察して弁慶を遣わし、病と偽る正尊を館へ連行する。厳しく追及された正尊は、熊野参詣のための入京だとしらをきり、起請文を書いて読み上げた。――

東京から来演の観世喜正が、正尊の複雑な心情をいかに演ずるか。仏倒レや宙返りなどアクロバティックな技を交えた能ならではの「斬組（きりくみ）」も楽しみだ。